

第1回 平成28年度モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する懇談会
議事概要

日時：平成28年6月17日（金）9：30～11：15

場所：足寄町民会館

出席者：《構成員》

氏名	分野	所属等
加賀谷 誠一（座長）	地域防災、都市計画	北海道大学名誉教授
柳川 久	動物類全般	帯広畜産大学副学長
持田 誠	植物	浦幌町立博物館学芸員
石垣 章	淡水魚類	十勝川の生態系再生実行委員会
山本 純郎	鳥類	希少鳥類研究者

《構成員欠席者》

氏名	分野	所属等
千嶋 淳	鳥類	NPO 法人日本野鳥の会十勝支部副支部長
澤村 寛	地質	足寄動物化石博物館館長

《オブザーバー》

氏名	所属等
村石 靖	足寄町役場経済課主査
安藤 祐樹	環境省釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所自然保護官
三間 武	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署主任森林整備官

【 懇 談 会 議 事 概 要 】

1. 開会：帯広建設管理部事業室長より開会挨拶
2. 配布資料等の説明
3. 一般道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の道路整備計画概要、調査地域概要、平成 27 年度調査結果概要について説明
4. 平成 28 年度の調査計画について説明
 - 4.1 自然環境調査に関する全体計画及び調査地全体の概況説明
 - 4.2 動物調査（哺乳類、両生類・爬虫類、陸上昆虫類）説明
 - 4.3 鳥類調査説明
 - 4.4 植物調査説明
 - 4.5 魚類調査説明
 - 4.6 地質・水質調査説明
 - 4.7 景観調査説明※各調査分野について既存資料整理結果、聞き取り調査結果に基づき、調査方法、調査時期・回数、調査範囲など説明

5. 意見交換会

5.1 加賀谷誠一（座長）

- ①道路計画を考える場合、2011 年から施行している環境アセスメント、環境影響評価法に準じた評価手順として複数案を評価し、自然環境に配慮した道路計画を行う必要があるものと考えている。
- ②当該地は阿寒国立公園内に隣接しているため、道路計画は環境に配慮した結果にしていきたい。

5.2 柳川 久

- ①動物、鳥類等に関する調査方法に関しては、調査内容（質・量）についても妥当である。
- ②今後は以下の視点を念頭に、道路計画の段階から自然に配慮することが必要。
 - ・道路工事中における環境影響の軽減
 - ・道路供用後の影響やロードキル等を想定したデータ収集及び対処方法の検討

5.3 山本 純郎

- ①この地域の希少鳥類の生息状況については不明であるが、希少鳥類の内、複数の種類が生息・飛来する可能性がある。
- ②希少鳥類の生息が確認された場合はその対策を検討する必要がある。

5.4 持田 誠

- ①調査方法については、ほぼ頻度や方法に関して妥当といえる。
- ②但し、調査初年度であり 5～6 月の調査が不足しているため、来年度以降調査を実施する必要がある。5～6 月は、非常に生育スパンの短い植物の移り変わりが多い季節であり、春から初夏にかけて調査が 2 回位あっても良い。
- ③植物は、現地での同定が困難なものが非常に多いため、(国立公園内で採取できない場合) 目視同定には十分注意して行う必要がある。
- ④アカエゾマツ林を通る路線であり、この辺りは特殊な環境という事もあるため、蘚苔類や藻類・地衣類に関しても調査が必要になる可能性がある。
- ⑤植物の場合は施工後の植生変化が非常にゆっくりとした形で起こり、工事時期が異なった場合に環境の遷移の仕方が異なるため、そのことを踏まえた調査計画や補足調査が必要。
- ⑥道路建設の影響として、環境の変化に伴い外来種の侵入等が考えられるため、道路の使い方や作り方の面についても工夫し、外来種の侵入を抑制できる検討を行う必要がある。

5.5 石垣 章

- ①オンネトーを起源とする当該地の河川は、非常に規模が小さく、水質環境が魚の生息出来ない環境であると思われる。但し、魚類は増水時に遡上したり支流に移動することがあるため、本川だけではなく支流を含めた周辺環境や気象の変化に応じた調査も必要となる。
- ②魚が生息する上で餌となる水生昆虫類を確認した方が良い。
- ③道路建設に伴って自然環境の改変が大規模に行われないう、工事に伴う自然環境保全対策については慎重に検討した方が良い。

5.6 構成員からの意見等の整理 (座長)

- ①調査方法の全般としては問題ないものと判断できる。
- ②植物調査については春の調査について回数を含めて検討した方が良いとの意見があった。
- ③工事中や道路供用後の環境変化に対して長期間監視できるシステムの構築があるとよい。
- ④今年度は基礎データを収集するため現状把握を行い、環境変化に対しての予測を考えながら専門家の知識を盛り込んだとりまとめを検討する必要がある。

5.7 事務局より調査方法及び工事について補足説明

- ①本日欠席の構成員 2 名 (千嶋淳氏、澤村寛氏) からは調査方法について事前に確認して頂いており、各構成員からの意見が反映された調査計画となっている。
- ②今年度はこの懇談会以降に調査を開始することになるため、4～6 月の調査が不足気味となるが、来年度以降に年間を通じて調査を行い予定である。
- ③工事中・供用開始後の環境調査も行う予定であり、オンネトー線で見られる自然と調和した道路づくりを目標とし、自然環境に十分配慮した調査・計画を検討する予定である。
- ④道路工事の影響による環境の変化を極力抑えた土工作业を考え、出来るだけ自然の改変が少ない形を検討したい。

5.8 構成員からの意見等の整理 (座長)

- ①外来種の侵入を止めるのは非常に難しいことだが、その影響が最小限になるような方法、工事も含め

て自然環境を残す配慮することが第一条件として検討する必要がある。

②環境の変化に対しては継続的なモニタリングを行い、きちんと見ていく必要がある。

③路線選定については自然環境に一番影響が少ないルート案を選定しているため、妥当な案といえる。

④今後、予想が付かない部分も出てくると思うため、それらに対して構成員の皆様から意見を頂きたい。

6. オブザーバーからの意見

6.1 村石 靖

①オンネトー地区には、年間30万～40万人の観光利用者等があり、火山の噴火などの影響で観光客の入り込み状況に変化はあるが、観光シーズンには大型バスで相当量の観光客が来訪するため、（観光シーズンに）火山噴火があった場合、観光客の避難路の確保は足寄町の観光振興にも繋がる。

②自然環境や景観等が観光資源となっているため、道路建設とのバランスを図りながら検討をお願いしたい。

6.2 安藤 祐樹

①雌阿寒岳は阿寒国立公園の特別保護地区であり、雌阿寒岳からの展望は阿寒国立公園景観の核心部として重要視している。

②雌阿寒岳から見える景色の中に人工物になるべく入らないように、また登山道からの見え方についても注意して頂きたい。

③道路整備によって得られる公益性、景観を維持するという事で得られる公益性を比較しながら（道路建設に関する）妥協点を探していきたい。

6.3 三間 武（北海道森林管理局 十勝東部森林管理署主任森林整備官）

①オンネトー地区は、まだ知られていない部分が多いものと考えている。

②今回の調査で得られたデータについては、国有林行政の中で活かして行きたい。

③希少鳥類がいる様であれば、その対応を進めていかなければならないであろうし、その他の動物等においても今後考えていく必要もある。

6.4 オブザーバーからの意見等の整理（座長）

①道路が便利になると見込み以上の観光客の方々が集まる可能性があるため、火山噴火に対する備えとして十分に検討する必要がある。

②ここでの景観は他に無い地域であり、今回選定したルート案は環境に配慮したルートといえるが、森林に与える影響は少なからず有るものであり、環境省及び森林管理局からの意見も踏まえて自然環境に配慮した道路づくりをどういった形でマッチングさせるか、考えて行く必要がある。

7. その他、今後の予定（事務局）

①第2回目の懇談会を11月～12月頃に、第3回目の懇談会を来年の3月頃に予定している。

第2回懇談会内容（予定）：春季・夏季・秋季調査結果報告及び意見交換

第3回懇談会内容（予定）：冬季・春季調査結果報告及び意見交換

②次年度（平成29年度）は不足の部分である春季の調査を予定している。

③次年度も改めて懇談会を立ち上げることもあるので、その際には意見を頂きたい。